

ね、この本よんだ？

2010. 4~2011. 3



図書館で毎月発行している『としょかん通信』でご案内した「あたらしい子どもの本」のリストです。
絵本、読みもの、テーマ本の三つの柱にわけて、全部で60冊のブックガイドです。
この一年、職員が手にとって選んだおすすめの本がリストアップされています。2008年度、2009年度に続く第3集になります。
もちろん紹介した本は、図書館で貸出ご利用いただけます。
このリストが、子どもたち、そして大人のみなさんにとっても、素敵な本との出会いのきっかけになりますように。



久留米市立中央図書館



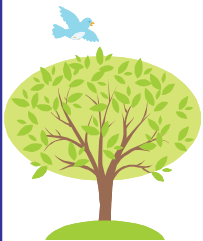
区分	NDC分類	内容	タイトル
絵本	913	日本の作品	おおきなけやき おおきなねことちいさなねこ 大阪うまいもののうた じゃがいもポテトくん とらばあちゃんのうめしごと トンノのひみつのプレゼント ブルオはいぬごやのした まち もりのおくのおちやかかいへ もりのおとぶくろ ヤマダさんの庭 ライオンはかせのはなやさん
	933	海外の作品	きみにあいにくたよ コウノトリのおはなし 希望の木 ごめんね！ ひみつだから！ マグナス・マクス、なんでもはかります ママ、お話読んで ゆき やめて！
	943	海外の作品	パパとニルス もっとおおきくなったらね！
	949	海外の作品	ぼくの！
	955	海外の作品	古井戸に落ちたロバ インディアンとティーチングストーリー
	読みもの	913	日本の作品
933		海外の作品	オリバー、世界を変える！ 銀のらせんをたどれば 11をさがして 少年グリフィン 誰もいない王女さま ティムール王国のゾウ使い ハンター

区分	NDC分類	内容	タイトル
			ふたりのプリンセス らいおんとであった少女 忘れないよ リトル・ジョッシュ
	973	海外の作品	赤ちゃんは魔女
テーマ本	015	図書館	図書館ラクダがやってくる
	031	図鑑	飛び出す！びっくり！3D図鑑
	080		行儀作法の教科書
	158	ともだち	こうすれば友達と仲良くなる
	330	お金	生きるための「お金」の話
	407	実験	食べ物実験レシピ
	502	技術	日本のすごいモノづくり
	547	通信	まるごとわかる！地デジの本
	596	料理	おすしのさかな
	626	野菜	エディのやさいばたけ
	645	家畜	ぶた にく
	720	絵画	約束「無言館」への坂をのぼって
	798	娯楽	あたらしいみかんのむきかた

絵本

【おおきなけやき】

林 木林 / 作
広野 多珂子 / 絵
すずき出版



この冬最後のさむさがやってきた日、森で一番背の高いけやきの木がたおれた。「そらがあんなにとおくにあるぞ。わしはもうおしまいだ」悲しむけやき。すると今まではけやきの木に登れなかったどうぶつ達が次々に遊びに来て、、、。遠くにも、近くにも素敵なことはある、という作者のメッセージが伝わる1冊。

【おおきなねことちいさなねこ】

石黒 亜矢子 / 再話・絵
長崎出版



ある日とても仲の良いおおきなねことちいさなねこが見つけたのは、おいしそうなおおきなおにぎりとおおきなおにぎり。でも2匹は自分が大きいおにぎりを食べたくてけんかを始めてしまいました。

なかなか決着のつかない2匹は、かきこいと評判のおおきなに相談に行くのですが…。さてさて大きいおにぎりは一体だれの手に？

【大阪うまいものうた】

長谷川 義史 / 著
佼成出版社



たこ焼き、お好み焼き、ぎょうざにイカ焼きかに道楽にづぼらや、あわおこし。なんだかおなが「グー」となってしまうような、おおさかの「うまいもん」が大集合。長谷川さんのパワフルなイラストで、大阪の勢いそのものを楽しく描きます。すぐにでも大阪に行って、食べたくなること必至です。

【じゃがいもポテトくん】

長谷川 義史 / 作・絵
小学館



じゃがいものじゃーむす君は北の国から家族親戚みんなで八百屋さんに行ってきました。しかし家族はそれぞれ違う家庭に買われ、ばらばらになってしまいます。でも翌週ある幼稚園で家族はお弁当のおかずとなって再会します。じゃーむす君、父さん・母さん、妹、親戚のみんなは一体どうなったのか…。巻末に長谷川義史・作詞、中川ひろたか・作曲の“じゃがいもポテトくん”の唄の楽譜がついた読んで楽しく、歌って楽しい絵本です。

【とらばあちゃんのうめしごと】

いちかわ けいこ／作
垂石 眞子／絵
アリス館

木に登って梅の実をとるところから始まったとらばあちゃんの梅干しづくり。



いっぱい手間ひまかけて、「まだかな、まだかな」と楽しみに待つ時間をいっぱいにくらませて出来上がった梅干しはやっぱりすっぱーい。親から子へ、そして孫へとこうして受け継がれていく日本の食文化が、たくさんあるといいなと思います。

【トンノのひみつのプレゼント】

田中 きんぎょ／作
みやざき ひろかず／絵
BL出版

今日は、お母さんの誕生日。トンノはお母さんを驚かせようとこっそりプレゼントを用意します。秘密の場所に隠してあるプレゼントを取りに行く途中、ウサギのおばさんや、小ジカのマーキに会いますが、プレゼントのことを誰にも知られたくなくて思わずウソを言ってしまいます。ところが、そのウソがどんどん本当になってしまいあせるトンノ。



トンノのついたウソの行方は…？

【ブルオはいぬごやのした】

山西 ゲンイチ／作・絵

しげちゃんは、むかひの家の、ブルオといういぬが苦手です。

いつも、こわいかおでほえてくるからです。あるひ、キャッチボールをしていたら、大変。

ボールがとんで、ブルオのいぬごやのなかにはいってしまいました。おそろおそろなかをのそくと、ブルオはるすのようです。

でも、ボールはなくて、かわりにあったのは、ちかへつづくながいがいかいだん…。さてさて、なにがまちうけているのでしょうか？



【まち】

新井 洋行／作・絵
自由国民社

主人公のみおちゃんはお母さんから頼まれて、お友達に手紙を届けに出かけます。

お母さんからのメモを片手に犬のクッキーと一緒に友達の家を探しに歩くみおちゃん。

途中、お母さんからの頼まれごともこなしていきます。

お友達に届けた手紙の中身は…。お母さんのメモを見て、みおちゃんと一緒に友達の家を探してみましよう。



絵本

【もりのおくのおちゃかいへ】

みやこし あきこ／著
偕成社



キッコちゃん一家のお父さんは、おばあちゃんの家へ雪かきに行きますが、ケーキを忘れてしまいます。

ケーキを持って、お父さんを追いかけたキッコちゃんは転んでケーキをつぶしてしまいます。

それでも一生懸命お父さんを追いかけたつもりだったのに、辿り着いたのは動物たちがお茶会に集まった不思議な館！大部分がモノトーンの絵の中でキッコちゃんの髪や服、動物たちの持ち物やおいしいそうなケーキの色鮮やかさが映えます。読んでいる人にもお茶会に招かれる楽しさが伝わるお話です。

【もりのおとぶくろ】

わたり むつこ／作
でくね いく／絵
のら書店

うさぎまちに仲良しの4匹の兄弟うさぎが住んでいました。

けがをしたおばあちゃんに元気を出してもらうため「もりのおと」を届けようと森へ出かけた4匹のこうさぎたち。風のおとや鳥のおと、はっぱの音、水のおと…。

「もりのおと」は見つかりましたが、どうやったらこの音を持って帰れるのでしょうか？



【ヤマダさんの庭】

岡田 淳／作
BL出版



気がつけば、ヤマダさんはひとりぼっちでなにもすることがありませんでした。そんなある日、ヤマダさんは、自分のうちに庭があるのを発見します。

庭を歩いてみると、池で人魚が眠っていました。「ほら、嵐の海辺で、怪獣と戦って助けてくれたでしょ。」「そうだった。あれってお話じゃなかったんだ。」不思議な庭で、忘れていた遠い日を思い出していくヤマダさん。心温まるファンタジーです。

【ライオンはかせのはなやさん】

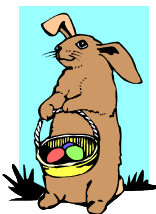
かつらこ／作
BL出版



発明が大好きなライオン博士のところに、なかよしのうさぎくんが来てタンポポの鉢植えをプレゼントしてくれます。その鉢植えを見てライオン博士は新しい花の研究を思いつきます。見たことのない花や、早く育つくスリ…。反対するうさぎくんの話を聞かずにライオン博士は研究を進め、研究は成功したかのようにでしたが…。大切なことは何かを考えさせてくれる絵本です。

【きみにあいにくたよ】

ナタリー・ラッセル／作・絵
磯 みゆき／訳



ちゃいろうさぎは、バスをまっています。きょうは、とくべつなひ。あのこに、あいにく、まちにいくのです。ちいさなうさぎは、うきうきしていました。きょうはとくべつなのです。まちは、ちゃいろうさぎにみせたいものばかり。たかいビルやギャラリー、ちかてつ…。「はやくきて！じかんがないわ。」でも、ちゃいろうさぎはつかれてしまって…。あいてのきもちをかんがえることの大切さに気付く一冊。

【コウノトリのおはなし】

マーガレット・ワイズ・ブラウン／作
ティボル・ゲルゲイ／絵
あんどろ のりこ／訳



北の国ハンガリーでは、コウノトリは「しあわせをはこぶ鳥」と考えられ、人々は彼らに来てもらおうと、煙突のてっぺんに荷車の車輪をゆわえつけ、巢の台になるようなものを作ったりします。春になるとアフリカからやってきて巣を作り、子育てをしたコウノトリは、冬が近づくと地中海を越えてまた南へ向かいます。たくましく生き抜いていくコウノトリたちの姿を、美しいイラストと文で描いています。

絵 本

【希望の木】

カレン・リンウイリアムズ／作
リンダ・サポート／絵
高岡 美智子／訳



ファシールの妹ルチアの誕生に、皆がお祝いをもってきたのをみて、ファシールも妹のために何かをあげたいなあと思いました。ファシールが生まれたときにパパが植えてくれたマンゴーの木、そのマンゴーの種を眺めているとファシールは良いことを思いつきました。

悪戦苦闘しながらも妹のためにファシールが贈ったものとは？心あたたまるハイチのおはなしです。

【ごめんね！】

ノルベルト・ランダ／作
ティム・ワーンズ／絵
三辺 律子／訳



うさぎくんとくまくんは大の仲良し。ふたりはうさくまハウスで一緒に暮らしています。ある朝、うさぎくんはキラキラ光るものを見つけました。ところが、うさぎくんとくまくんはそのキラキラをめぐって、けんかをしてしまいます。はじめはかんかんに怒っていたふたりでしたが、時間が経つにつれてお互いのことが気になってきて……。無事に仲直りはできるのでしょうか？

【ひみつだから！】

ジョン・バーニンガム／作
福本 友美子／訳
岩崎書店



マリー・エレインのうちにはマルコムというネコがいました。ある晩、ネコのマルコムはすっかりおめかしをしていました。マリー・エレインと一緒に行きたくてたまりません。パーティーの格好をし、小さくなってネコの入り口から飛び出します。ネコって夜になるとどこに行くのかな？楽しくて、夢のある絵本です

【マグナス・マクス、 なんでもはかります】

キャスリーン・T・ペリー／作
S・D・シンドラー／絵
福本 友美子／訳



マグナス・マクスは、ものををはかるのが大好きなおじいさん。ものををはかるといえば、普通はウエスト回りや、子どもの背丈や、足の大きさなどですが、マグナス・マクスがはかるのは、そんなありきたりのものではありません。

鼻にメガネをちょこんとかけて、なんでもはかります。『マグナス・マクスにはからせれば、まちがいない！』とみんなはいいました。

ところがある日、メガネがこわれて、はかることができなくなってしまいました…。

【ママ、お話読んで】

バシャンティ・ラハーマン／文
ローリ・M・エスリック／絵
山本 敏子／訳



ジョーゼフは本が大好き。ママのお話を聞くのも大好きでした。図書館から借りてきたむずかしい本をお話上手のママに読んでもらおうと思いましたが、ママは忙しいと言ってなかなか読んでくれません。しかし、ある日のこと、ママは泣きながら、本当は読み書きができないのだとジョーゼフに打ち明けました。母と子の切なくも心あたたまる絵本です。

【ゆき】

シンシア・ライラント／文
ローレン・ストリンガー／絵
小手鞠 るい／訳



ダイナミックに画面いっぱい描かれた雪が雪の日の楽しさをよく表わしている絵本。雪の日は学校も早めに終了。

友達と長靴を履いて、雪を食べたり、雪の山を滑ったり、暖かい家の中でお茶を飲みながら雪を見て、いろいろなお話をしたり、雪はすぐに消えてしまうけど思い出は長く残ります。雪のあまり降らない久留米に住む私たちが感じるワクワク感にも通じるものがある一冊です。

【やめて】

デイビッド・マクウェル／作・絵
柳田 邦男／訳
福間書店

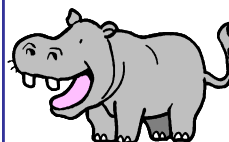


一人の男の子が大統領宛てに手紙を書きました。その手紙を投函するまでの間に、戦闘機が空を飛び、戦車が男の子の横を通り過ぎて行きます。男の子が発する言葉は「やめて」のみ。1画面1画面の中に込められている作者の平和への願いが力強く伝わってきます。ぜひ“感じて”ほしい絵本です。

【パパとニルス

もっとおおきくなったらね！】

マーカス・フィスター／作
那須田 淳／訳



たとえばコーヒーを飲むことだったり、新聞を読むことだったり、ちいさなかばの男の子ニルスは何でもパパのまねをしたがります。

そのたびパパは「もっと、おおきくなったらね」とニルスをたしなめます。誰にも覚えのある親子の会話と、やさしく、でもきっぱりと「いまはパパのいうことをききなさい」というパパ。

でも、その厳しさはニルスへの愛情からのもの。“ちいさな”ニルスと“大きな”パパが仲良く遊ぶほほえましいイラストが素敵な心温まる絵本です。

【ぼくの！】

マチルデ・ステイン／文
ミース・ファン・ハウト／絵
野坂 悦子／訳

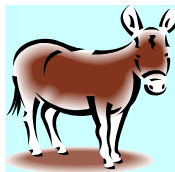


ある夜、小さな白いおばけが、少女メレルのベッドに現れます。一緒に寝ようと思ってもおばけは「ぼくの！」と言って布団を全部引き寄せてしまいます。次の日も、なんでも「ぼくの！」と言って独り占めしようとしてしまうおばけ。少しずつ一緒に遊べるようになっていったおばけですが、山の上の家から小さな白いおばけを探しに来て…。

読みもの

【古井戸に落ちたロバ インディアンのティーチング ストーリー】

北山 耕平 /再話 o b a /絵と文
じゃこめてい出版



としよりロバがじいさまに連れられて荷物を運んでいたとき、使われていない古井戸にロバが落ちてしまう。じいさまはなんとか助けてやれないものかと考えたが、大掛かりなことをして助けても、としよりロバが働けるのはあと少しのあいだだけだろうと、涙をのんでとしよりロバごと古井戸を埋めてしまうことにした。助けを求めて鳴くとしよりロバの上から土がどんどん降りかかり、、、生きることの困難と、生命力の強さを感じます。

【アヤカシ薬局閉店セール】

伊藤 充子／作
いづのかじ／絵
偕成社



ケチで人付き合いも苦手なさくらさんが、商店街で古くから経営するアヤカシ薬局には、近頃さっぱりお客さんが来なくなりました。もう、おばあさんのさくらさんは、今ある商品を売り切ったら店を閉めようと考えます。

フクノ介と名付けた招き猫が動き出し、セールのチラシに“アヤカシ薬局”と書いたことから、店には鬼や河童、天狗などが次々来店し、アヤカシ達で大繁盛！！
何とも人間くさいアヤカシ達と親しくなったさくらさんは、このまま店を閉めて、引退してしまうのでしょうか

【行け！シュバットマン】

村中李衣／作
堀川真／絵
福音館書店



主人公直也のかあさんは、正義のヒーローを演じるスーツアクター。それを栄養たっぷりの料理で支えるのが、小さなレストランをやっているとうさん。二人の熱い日々におされぎみの直也にも“オトコの闘い”の火花が！
悩んだり傷ついたり落ち込んだり…。でも直也がくぐっていく日々のバックにはいつもシュバットマンの勇姿があります。

【おねえちゃんってふしぎだな】

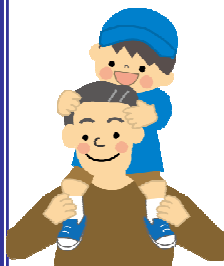
北川 チハル／作
あかね書房



ちーこちゃんは幼稚園では“おおきいきみ”のお姉さんです。
でも、家では小学生のおねえちゃんより小さいもうとです。ちーこちゃんのおねえちゃんは、強くて頭がよくて足も速い。
でもときどき意地悪で、おこりんぼう。そんなおねえちゃんとおつかりに行ったらちーこちゃんはびっくりしてしまいました…。
姉妹のふれあいをあたたかく描く物語です。

【きのうの夜、おとうさんが おそく帰った、そのわけは…】

市川 宣子 /作 はた こうしろう /絵
ひさかたチャイルド



あっくんのお父さんは夜遅くなってもなかなか帰ってこない日があります。一体どこで何をしているの？というあっくんの疑問に次の夜お父さんがはなしてくれたのは、お父さんが大活躍した昨夜のお話。
大なまずに子守唄を歌って大地震を防いだり、迷子の雷の子を空まで送り届けて夕立ちを降らせたり、ホームランで夜空に星を戻したり、町に春を運んだり大活躍？
お父さんのあっくんへの愛情あふれる語り口が素敵で、大人も子どもも温かい気持ちになれる作品です。

【きんいろのさかな・たち】

大谷 美和子／作
平澤 朋子／画



マリ、桃子、康子、美帆、あずさの5人は、小学6年生。彼女たちは、いろんな問題をかかえている。仕事第一の女優の母親との関係、認知症のおばあちゃん、わがままな姉、病気の母、うまくいかないお母さんとおばあちゃんの関係…。傷つき、悩み、苦しみながら、家庭の中で成長していく少女たちの姿に、身近な人たちとの関わり方について、もう一度考えさせられます。

【最後の卒業生】

本田 有明／作
河出書房新社



2006年に財政破綻が明るみに出て、翌年財政再建団体に指定された北海道夕張市。再生策のひとつとして市内の中学校が統廃合され、「最後の卒業生」となる沼ノ沢中学の3年生。自分たちの生まれ育った町の未来を彼らなりに考えていく中で、次第にそれは自分の未来2をも考えていくことにつながって行くのでした。厳しい環境ながらもたくましく、しっかりと地に足をつけて未来へと巣立っていかうとする中学生の物語です。

【皿と紙ひこうき】

石井 睦美／作
講談社



由佳が住む山間の12軒の集落は、陶芸を家業とする通称“皿山”。何百年もの間その家業は変わることなく、いまなお「一子相伝」で伝えられている。自然と伝統とあたたかな家族に囲まれて育ってきた由佳だが、その歴史や伝統を窮屈に感じ故郷に戻らない会ったことのない伯父の話や東京から転校してきた伊藤の存在で、自分自身を改めて見つめなおしていく。大分県日田を舞台にした清々しく成長していく女の子の物語。

【すずちゃん】

さえぐさ ひろこ／作
ひろかわ さえこ／絵
佼成出版社



ある日、ようちゃんは家の前で一羽の弱ったすずめを見つけます。家に連れて帰り、元気になるまでお世話することにしました。すずちゃんとお水を用意して、食パンを細かくちぎって、公園から小さな木の枝や葉っぱも拾ってきました。外で暮らす鳥は外がおうちだとわかっているようちゃんですが、次第に元気になっていくすずちゃんに、ようちゃんの心は揺れ動きます。小さな女の子の心の揺れ、心の成長を描いた作品です。

読みもの

【つづきの図書館】

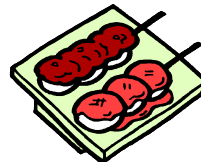
柏葉 幸子／作
山本 容子／絵



田舎の図書館に勤めている司書の桃さん。ある日、絵本からはだかのおうさまが出てきて、気になる子どもの行方を探して欲しいと頼まれます。さっぱりわけがわからず、困り果てた桃さんですが、次第にこの不思議な出来事を受け入れて…。ユーモアを交えた心温まるファンタジーです。

【秘密のスイーツ】

はやしまりこ／作
いくえみ稜／絵



小学6年生の理沙は不登校になり、母親の実家のある町に引っ越します。母とケンカをした理沙は、困らせるために母のケイタイを持ちだして神社に隠してしまいました。後から探しに行った理沙ですが、なかなか見つかりません。ケイタイに電話をしてみると女の子が出ます。そのケイタイを拾ってくれた雪子はなんと1944年、66年前の日本に生きている少女でした。お菓子が大好きな理沙と、戦争中で食べ物にも困る時代を生きる雪子、2人の交流を描く物語です。

【やすしのすしや】

新井 けいこ／作

大庭 賢哉／絵 子どもの大好物を聞くと必ず上位にランクインする“お寿司”。

文研出版



主人公の保志もお寿司が大好きで将来の夢は回転寿司屋。

でも、おじいちゃんがかたくなに町の小さな「本物の寿司屋」にしか行こうとしません。

保志は、本物のお寿司がおいしいのはわかるけど、おじいちゃんと一緒に回転寿司も楽しみたいと思うのですが…。

回転寿司にはよく行っても町の寿司屋にはあまり行ったことのない子どもたちでも、保志の視点を通して、それぞれの良さに触れることができ、読み終わったあと、お寿司が食べたくなる一冊です。

【竜の木の約束】

濱野 京子／作

丹地 陽子／絵



桂は、中二の少女。両親が離婚し、母と二人暮らしで転校を繰り返したため、親しい友達はいない。桂のモットーは、「近づきすぎず、無視をせず、うちとけすぎず孤立しすぎず、適度の距離を保つこと」。

そんなある日、《竜の木》の下で、桂は印象的な少年に出会う。きれいな顔のその少年は、同じクラスの優等生の少女、麻琴によく似ていた…。先が気になる展開の中で、思春期の少女の心の成長を描いています。

【オリバー、世界を変える！】

クラウディア・ミルズ／作

菅野 博子／絵

渋谷 弘子／訳



病気がちのオリバーは心配性のママが何でも先回りをしてやってくれることがあたりまえになっていました。

何をするにもママの許しを得ていたオリバーが理科の授業で冥王星を知ったことで、宇宙への好奇心が芽生えていきます。

ほくも本物の望遠鏡で宇宙をこの目で見たいんだ！ 夢を実現するためにオリバーはさてどうしたのでしょうか？ 少しずつ自分の世界を持ち始めた男の子の成長を描きます。

【銀のらせんをたどれば】

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ／作

市田 泉／訳

佐竹 美保／絵



地球で生み出されるあらゆる物語、伝説、神話などが糸や話網となり、銀色のらせんを形作って地球の周りでうずまく「神話層」と呼ばれる世界。厳しい祖母と忙しい祖父に育てられたハレーはその不思議な世界に惹かれて、足を踏み入れていくことに。

ギリシア神話や伝説の登場人物も現れて、ハレーの冒険を後押しします。読みやすいファンタジー。

【11をさがして】

パトリシア・ライリー・ギフ／作

佐竹 美保／絵

岡本 さゆり／訳



主人公のサムは、ディスクレシアという学習障害で、読み書きがほかの子のようにできないことでいつも胸に怒りがたまっていきます。そんなサム、が屋根裏で自分の幼い頃の写真が載った新聞を見つけ、かろうじて読めたのが行方不明という文字だけ。

新聞を読んでもらうために近づいたキャロラインは、転校を繰り返し、友達を作ることをあきらめていました。秘密を共有し、一緒に課題の城を作ることで深まる二人の心の交流と、わずかな手掛かりを元に真実を追うミステリー風のストーリーが魅力的で、字を読むことに何倍もの努力が必要な人が抱えるストレスについても考えさせられる作品です。

【少年グリフィン】

C・W ニコル／作

栗原 紀子／訳

小学館



舞台は1952年のイギリス。主人公は12歳の少年、グリフィン。学校以外のグリフィンの生活は、友人の家が営む農業を手伝ったり、カワウソの巣をこっそり観察したり、シー・カデット(海軍の訓練学校)に参加したりと、冒険と楽しみに満ちている。

そう、学校では、彼はひどいいじめの標的にされていた…。自身もいじめに遭っていた著者の、若い読者への、「なにがあっても死んではいけない、どうか生き延びて、生き続けてほしい」というメッセージが込められた、1人の少年の物語だ。

【誰でもない王女さま】

アンドリュー・ラング／作
リチャード・ドイル／絵
安岡 みゆき／訳

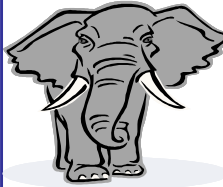


「昔々、王さまと王妃さま住んでいたある国では、今よりもっと多くの妖精を見ることができました」王さまがうっかりドワーフに「ニエンテをあげる」と言ってしまったために、姿を消してドワーフから逃げなければならなくなった王女。

醜いけれど心の優しいコミカル王子は、王女を救うことができるのか？ページをめくるごとに印象的なドイルの絵に目を奪われる、19世紀のロンドンで出版された創作童話の日本語版です。

【ティムール国のゾウ使い】

ジェラリディン・マコックラン／作
こだま ともこ／訳
小学館



14世紀の中央アジア。

時の英雄ティムールは、遊牧軍を率いて次々に都や街を侵略し、残虐な行為を繰り返しながら巨大な帝国を築きあげていました。

そのティムールに従う新米戦士ラスティはティムールに侵略され奴隷となったゾウ使いの少年カヴィと出会ったことによって、絶対的な覇者であったティムールの行いに疑問を持ち始めていきます。

互いの立場や境遇の違いをのりこえて、2人の少年は心を通わせていくのですが…。

【ハンター】

ジョイ・カウリー／作
大作 道子／訳



マオリ（ニュージーランドの先住民）の奴隷少年ハンターにはみえないはずのものが見とおせるという、特別な能力があった。主人たちとともに、フィヨルドランドの森の幻の巨鳥モアを追う中、ハンターは不思議な光景を見る…。

1805年、奴隷生活からの逃亡を決意したハンター。

2005年、墜落した小型機に乗っていた3人の姉弟。

緊張感あふれる二つの世界の物語。

【ふたりのプリンセス】

シャノン・ヘイル／作
代田 亜香子／訳



母を亡くし、一人ぼっちになった遊牧民の少女ダシュティ。サレン姫の侍女としてお城で働くはずだったのに政略結婚を嫌った姫と一緒に塔に閉じ込められ、姫に命じられるまま姫のふりをしてしまう…。ダシュティの日記の形をとりながら、大きな秘密を抱えて、打ちひしがれたサレン姫を守り、誠実にたくましく生き抜いていくダシュティの姿が生き生きと描かれたファンタジー。

【らいおんとであった少女】

バーリー・ドハーティー／著
斎藤 倫子／訳



アフリカ・タンザニア。両親と妹を亡くしたアベラは、母親の最後の言葉を胸におばあちゃんのピピと暮しています。

ところが、故郷を捨てたはずの伯父のトーマスが戻ってきたことにより、さらに過酷な苦難にアベラは巻き込まれていくのでした。

アフリカの子もたちの現実と、養子を迎え入れようとする家族の葛藤を二人の少女を通して描きます。

【忘れないよ リトル・ジョッシュ】

マイケル・モーパーゴ／作

渋谷 弘子／訳
牧野 鈴子／絵



イギリスの農場の娘ベッキーは、パパとママ、馬のルビー、犬のボブズ、自分で取り上げた羊のリトル・ジョッシュをはじめとする沢山の動物達と楽しく暮らしていました。

そんな何気なくも幸せな一家に口蹄疫発生という悪いニュースが届きます。口蹄疫の侵入を防ぐべく最大限の努力をしているにも関わらず、口蹄疫はどんどん広がり、とうとうベッキーの農場にもやってきました…。多くの人がニュースとしてしか知らないであろう口蹄疫に見舞われた農場の家族が直面する厳しい現実と心に負う傷について1人の女の子の日記の形を通して考えさせてくれます。

【赤ちゃんは魔女】

ピアンカ・ピッツオルレ／作
杉本 あり／訳
高橋 由為子／絵



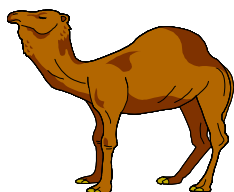
ゼップ家に、7人目の女の赤ちゃんが生まれました。この赤ちゃん、ヨランデッラは、6人のお姉さんたちとはちょっと違います。お風呂に入ると、誰も支えなくてもぶかぶか浮くし、鏡にはうつらないし、ほうきにまたがると宙に浮くし…。

同じころ、なまけもの若者アスドルバーレは、大おじさんの遺産を相続するのを心待ちにしていました。ところが、大おじさんの遺書には「一年と一月以内に、魔女と結婚しなければ、遺産はわたさない」と書かれていました。魔女を探し始めたアスドルバーレは、ふとしたことから、ゼップ家のことを知り…。

テーマ本

【図書館ラクダがやってくる】

マーグリート・ルアーズ／作
齊藤 規／訳



移動図書館といえば車。でも、ケニアのブラ・イフティンという地域にむかう道は、砂ばくの砂のために、車では通行できません。では、何が本を運ぶのか？答えは、ラクダ！です。ラクダで、何と500冊もの本を運べるのです。本を読むことに飢えた子どもたちは、ラクダの到着を今か今かと待っています。本を手にした子どもたちの笑顔にカブつけられ、世界中の図書館員たちは今日も頑張っています。

【飛び出す！ びっくり！ 3D図鑑】

学研教育出版



キリンやライオンなどの動物からカブトムシやチョウなどの昆虫、チューリップの花、恐竜の骨、水晶の結晶、乗物…など134枚の立体写真を掲載。

3Dビューをとおして、いろいろなものを見てみましょう。まるで目の前にあるように見えてきます。3Dならではの迫力とふしぎがいっぱいの図鑑です。

【行儀作法の教科書】

横山 駿也／著
岩波出版



朝起きたら顔を洗います。このとき、昔からするとよいとされている作法があります。それは、次のうちどれでしょう。

①耳をひっぱる ②口をすすぐ ③目をパチパチさせる。

本書は、このようなクイズ形式で、楽しみながら基礎的な行儀作法を学べるようになっています。しかし、著者の言うように、一番大事なことは周囲の人を不快にしないことであり、これこそが行儀作法の基本で、最も根本的な人への思いやりであるという考えではないでしょうか。

【こうすれば友だちと 仲良くなる】

香山リカ／作



友だちのことで悩んだことはない、という人は少ないのではないのでしょうか。

友だちがなかなかできなかったり、友だちに遊びの誘いを断られて落ち込んだり…。精神科医である著者も、小学生時代は友だちのことをずいぶん気にしていました。本書には、現在の著者が、悩んでいた子どもの頃の自分に言ってあげたいことがつまっていますが、今悩んでいるあなたの心も、きっと軽くしてくれる1冊です。

【生きるための「お金」の話】

高取 しづか／著

サンマーク出版



親の口からはなかなか伝えにくい、でも生きていく上で避けられない大切なお金の話。今、学校で勉強していることが将来どうやってお金を稼いで生活していくかに大きく影響すること、お金をめぐって起こった怖い話、お金で買えない大切なことまでエピソードを交えてわかりやすく解説。

便利な道具であるお金は、どう稼ぎ、何を実現するために使うかで、人を幸福にも不幸にもします。

子ども向けに書かれているものの大人が読んで、自分はどのようなお金の使い方をしているだろうかと考えさせられる内容になっています。

【食べ物実験レシピ】

左巻健男／編著

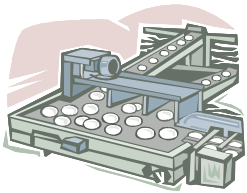
文一総合出版



黄→赤→黄と色が変わる焼きそば、安全な食材を使ってできる紫→緑の色変わりホットケーキなど、やってびっくり、食べておいしいキッチンでできる科学実験30種を紹介。家庭のキッチンにある道具や材料を使ってできる、楽しい科学クッキングです。親子で一緒に家庭で楽しめます。

【日本のすごいモノづくり】

中村 智彦／監修



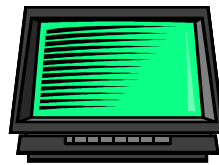
国土も狭く資源も乏しい日本が、経済大国としての地位をここまで築いてこれたのはなぜか？

いま話題のLEDや産業ロボットから、インスタントラーメン等の食品やリカちゃん人形や高層ビルまで、日本が誇る製造業のスゴサ面白さがたくさんつまった一冊です。読むと目が離せなくなります。

【まるごとわかる！地デジの本】

マイカ／作

社団法人デジタル放送推進協会／協力



「地デジの準備は済みですか？」いま、テレビから頻りに流れてくるこの言葉。今年の7月24日に日本のテレビ放送はすべて地上デジタル放送に変わるからってというのは、もうなんとなくは知ってますよね。では、一体この“デジタル”とは何なのか？わかりますか？今や気付かないうちにデジタルは私たちの生活の中にいっぱい！それをわかりやすく教えてくれる一冊です。

テーマ本

【おすしのさかな】

川澄 健・サンシャイン国際水族館／監修

ひさかたチャイルド



みんなが大好きなお寿司。そのお寿司は何からできている？

ごはんとのりと、それからお魚。この本はそのお魚を中心に紹介しています。「まぐろ」「あじ」、「さけ」や「いか」等、お寿司になる前はどんなふう

に海で泳いでいたんだろう？どうやってお寿司になるの？身近な食べ物から、魚たちが悠々と大きな海を泳ぐ海の恵みを感じてみませんか？

【エディのやさいばたけ】

サラ・ガーラド／作

まき ふみえ／訳

福音館書店

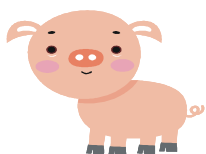


「ぼく、じぶんの畑をつくってもいい？」エディの提案を快く受け入れてくれるママ。「やさいや花はどうやったら育つの？」自分の畑を持つことでそこを訪れるたくさんの虫たちとの関係を学び、また世話をする大変さと喜びを知りながら、エディはその答えを自ら見つけていきます。思わず何かを育ててみようかなと思える素敵な絵本です。

【ぶた にく】

大西 暢夫／写真・文

幻冬舎



わたしたちの食卓によく登場する豚肉。スーパー等で見かける豚肉はすでに加工してあるものだが、そこに至るまでの経緯を知っている人がどのくらいいるのだろうか？

この本は1匹のぶたが生まれ、やがて食品として加工されるまでを写真でおっていく。

「豚は人間の都合で生かされているのだ。」わたしたちは、命をいただいて生きていけるのだと改めて考えさせられる。

【約束「無言館」への坂をのぼって】

窪島 誠一郎／作

かせ りょう／絵



戦没した画学生の絵を展示する慰霊美術館「無言館」を開設した作者の生い立ちから、美術館設立を決意し、完成にこぎつけるまでを子どもにもわかりやすく描いた本。

最後まで絵筆を離さなかった画学生たちの思いや、作者の平和への思いがあらわれた作品です。

夏休みに親子で読んでみてはいかがでしょうか。

【あたらしいみかんのむきかた】

岡田 好弘／作

神谷 圭介／絵・文



大みそか、主人公の「むきおくん」が、大好きなみかんの皮をむいてできたのは、なんととうさぎ。

みかんの皮に線を描き込み、その通りに工作ばさみやカッターなどで切り抜けば、動物の形ができあがります。

ねずみ、うし、とら、うさぎなど干支を中心に全25作品の作り方を紹介する工作絵本です。この本を読んで、あたらしいみかんのむきかたにチャレンジしてみましょう。